

「下妻市SDGs推進条例」を制定

下妻市では令和3年6月、持続可能な社会を後世に引き継いでいく施策に取り組んでいくため、SDGs達成のための市の責務や市民の役割などを定め、各種施策にSDGsの理念と目標を反映させるよう「下妻市SDGsに基づく持続可能なまちづくり推進条例」を制定しました。

下妻市ではSDGs関連施策を推進するに当たり、広報、啓発に取り組むとともに、ステークホルダー(SDGs達成のために関わる個人、民間企業、民間団体、NPO、行政機関等)との連携、協働に努めます。

企業としてできること



アルミ溶解炉へ原料投入

(株)LIXIL 下妻工場
工場長 矢野 正彦さん

リクシルでは、これまでも環境分野への取り組みなどを積極的に進めてきましたが、4年ほど前から全社を挙げてSDGsに取り組んでいます。下妻工場でも国内で最大級のアルミサッシ製造工場として、断熱サッシの製造に注力しているのはじめ、輸送の効率化を図ることによるCO₂(二酸化炭素)排出量の削減や、資源リサイクルなど、SDGsの達成に貢献できるよう日々取り組んでいるところです。

なお、アルミ新地金精錬などの製品製造工程では、大量の電気や水を使用しCO₂を排出しますが、リサイクルのアルミ材を使用することで、製品製造に必要なエネルギーを削減することができます。社内のアルミ材のリサイクルだけでなく、市中アルミ

資材を買い取ってのリサイクルも積極的に進んでおり、リクシル国内工場年間約34万トンのCO₂排出削減に貢献しています。

5、6年前までは、リサイクル材を用いた製品については取引先から敬遠されておりましたが、最近では逆にリサイクル材であることが「価値」となってきたりしています。社内だけでなく、社会全体の意識が変わってきているのを感じますし、私たちの取り組みも社会意識の変革に貢献できているのではないかと手応えも感じています。

今後も責任ある資源の使い方を推進し、循環型社会への移行を目指してSDGsの達成に貢献できるよう、地域とともに取り組んでいきます。

自分たちができる取組みで地域貢献



刃物研ぎの様子

ポリマーサークル
みんなの研ぎ屋さん
会長 霜村 尚武さん

「みんなの研ぎ屋さん」を結成したきっかけは、最近一人暮らしのお年寄りが多くなり、包丁を研がずに使っている方も増えているのではと感じていたためです。現在は旧小学校区の市内10か所で、ポリマーサークルの刃物研ぎ活動を行っています。口コミなどで取り組みが広がり、昨年は約4千5百丁の刃物を研ぎました。多い時には1日に4百件の申し込みがありますが、現在24名いる会員の皆さんは一生懸命に対応してくれています。

メンバーの雰囲気が良いのが自慢で、楽しく活動できるよう、普段から会員同士のコミュニケーションを図るように努めています。おかげさまで、この活動を通じ新し

い付き合いもできました。

取り組みの中でやりがいを感じるの、やはり相手に喜んでもらえること。感謝の手紙をもらえたりするとやっぱりうれしいし、こうした瞬間があることで活動が続けられています。

「まだ使えるものをすぐに捨ててしまうのはもったいない」この取り組みを通じて、物を大事にする気持ちが広まっていただくと願っています。

SDGsのキーワードは「持続可能性」ですが、この活動も持続的なものになりたいと思っています。地域の皆さんに喜んでいただけるこの活動にご賛同いただける方、ぜひ一緒に参加してみませんか。

未来のために今できること SDGs

このページでは、実際にSDGsにつながる取り組みをしている市内のステークホルダー(SDGs達成のために関わる個人、民間企業、民間団体、NPO、行政機関等)を紹介します。

理想の未来のために



市立大形小学校
仲見川有紀子教頭
児童たちがSDGsについて学習を進めています(大形小学校「せいりゅう委員会」のみなさん)

大形小学校では今年度「みんなの下妻市 大好きな大形小学校で、一人一人ができることを取り組もう!」をテーマに、全児童、全職員が一年を通してSDGsに取り組んでいます。

SDGsについて知るため、総合的な学習の時間には、タブレットを用いて学習を実施し、タブレットで写真や動画を見ることにより、より深くSDGsについて学んでいます。また、7月にはJICA(国際協力機構)による講演会「国際協力について学ぼう」を実施しました。講演会の目的は、実際に途上国に関わってきた講師の生の体験を聴くこと。子どもたちにとって、「食事や生活」助け合うこと」について知ることや、国際協力に

ついて実感を持つことはなかなか難しいですが、JICA職員の生の話から、子どもたちはそれらをより身近に感じたようです。

以上のような学習を通して、児童たちはSDGsの目標年である2030年のあるべき地域や日本、世界の姿を想像し、そのために「自分たちに何ができるか」を考え、それぞれの「宣言カード」を作成する取り組みを行いました。一人一人ができることを「宣言」し、それを実行し続けることで、地域に貢献する心を育てています。

これらの取り組みで大事なのは「続けること」。理想の未来のため、来年度以降も子どもたちと一緒にSDGsに取り組んでいきます。

ゼロカーボンシティ宣言



下妻市役所生活環境課
中村 洋輔さん
Nearly ZEBの実現を目指す新庁舎(建設イメージ)

下妻市では、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「下妻市ゼロカーボンシティ」を宣言しました。脱炭素社会の実現に向けた省エネルギーや再生可能エネルギーの利用推進、循環型社会を構築するためにリデュース(発生抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再生利用)、リフューズ(発生回避)、リペア(修理)の5Rの推進、省エネ意識の普及啓発、環境教育・学習の推進による地球温暖化対策に取り組む市民・事業者を支援していきます。

主な取り組みとしては、市指定ごみ袋を令和3年度製造分から環境配慮型素材に変更しました。この素材は石油由来原料の使用量を減らし、焼却した際に発生する二酸

化炭素を減少させることが期待できます。

また、現在整備を進めている新庁舎では、建物の断熱性能を高めるほか、高効率な空調設備やLED照明設備、熱損失が少ない換気設備等の採用で省エネを図り、太陽光発電による創エネを実施することで、一次エネルギー消費量を25%以下まで削減する庁舎では県内初の「Nearly ZEB」(ニアリゼブ)の実現を目指しています。

今後もゼロカーボンシティ宣言都市として、脱炭素社会の実現に貢献できる取り組みを積極的に展開してまいります。